

今はじめれば未来が変わる。みんなの活動を紹介します。

県内各地で環境活動の芽が出てふくらんでいます。あなたも積極的に参加してみませんか。毎年恒例の行事もあるので、ぜひ来年は参加してみてくださいね。

01 第1回「あおり環境まんが展」作品募集中！ ～自然豊かな青森からまんがでメッセージを送ろう！～

漫画を通じて自然環境や地球について考えようとして、NPO法人青森編集会議では「第1回あおり環境まんが展」の作品を募集しています。

主催者によれば、豊かな自然に恵まれる本県から環境を「守る・保つ」ことの意味を改めて考え、私たちにとってもっとも身近で理解しやすい表現手段である「まんが」で情報発信していきましょう、とのこと。

第1回のテーマは「森」。地球温暖化に代表される環境破壊への警鐘、省エネについてもまんがの持つユーモアで表現してほしい、とのこと。

県内在住のアマチュアなら誰でも応募できます。

- 締切：10月31日（火）
（審査結果は12月に発表、来年3月21～27日まで青森市文化会館で作品展を開催、道の駅ゆーさ浅虫で巡回展も開かれます。）
- 応募要項：
ホームページ（<http://aomori-ec.com>）に掲載されています。
- 問合せ：青森市新田 1-11-5
NPO法人青森編集会議「まんが展」係
TEL：017-782-1261 FAX：017-761-1869



04 沈みゆく南太平洋の島、「ツバル」を支援する NGOの遠藤秀一さんが十和田市市民大学講座にやってきました。

ツバルは近い将来海中に沈んでしまうと言われています。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によると今後100年間で最大5.8度の上昇という予想に変更されました。同時にそれに伴う海面上昇は最大で88cmと報告されています。

平均海拔1mにも満たない珊瑚礁で出来た島国ツバルは、海水面の上昇に対してもっとも抵抗力が無い場所とされています。

海面上昇による影響は、目に見える浸食という被害の他に、地下水に海水が流れ込んで、

飲み水がなくなってしまう、土中に海水がしみ込んで、作物が育たなくなってしまうといった被害もあり、そのような被害が出始めた時点で、人間が住めない土地になってしまいます。「土地」というと小さい部分と思われがちですが、ツバルにとっては「国」がなくなってしまうかもしれないのです。そんな危機的状況にあるツバルを助けることはできないのでしょうか。私たちが何をすればいいか、遠藤さんの実体験を聞きながら考えてみませんか？



日時：11月9日（水）
会場：十和田市中央公民館
参加無料
●会場では遠藤さん撮影のツバルの写真集のサイン会も開催されます。
●この講座にはどなたでもご参加いただけます。どうぞお問い合わせの上、おいでください。

02 東北環境教育ミーティング2006（第8回）が 小川原湖自然楽校（根井楽舎）で開催されました。

9月7～9日、東北環境教育ミーティング実行委員会主催で第8回東北環境教育ミーティングが三沢市の小川原湖自然楽校根井校舎（旧根井小学校）にて開催されました。

2泊3日の行程中は天気にも恵まれ、八甲田登山、カヌー体験、仏沼観察会等の体験活動が和気あいあいと行われました。

日中たっぷり体を動かし、温泉で汗を流した参加者たちは、2日目の夜のプログラム、「環境まんがとおしゃべり」の際にはゲストの本田亮さんともすっかりうちとけた様子でした。本田さんは広告代理店に勤務するサラリーマンで同時にカヌー愛好者の「サラリーマン転覆隊」の隊長であり、環境漫画家です。

自然を相手に遊び疲れ果てた大人の大人が夕飯中、箸を握ったまま、舟をこいでいる写真に笑いが起こりました。「でも、月曜日のやる気が全然違う。新鮮ですよ。」ほとんどの人が頷いていました。

大国といわれる国の国防費を環境保全に回したら、今の環境問題はすんなり解決するかもしれない。しかし国の方向転換など期待して待ってられない。身の回りのできることからやってみてほしい。そしてとにかく発言することを心がけてほしい。そのことで環境問題を大切と考える人々がたくさんいる、と政治に圧力をかけて国を変えていこう、とのこと。



今回のように、たまにはぐったり寝るくらい遊ぶ日があってもいいものですね。参加者たちは皆いい顔をしていました。

03 「第1回あおり環境フェスティバル&3R推進青森大会」が開催されました！

「もったいないを見直そう」をキーワードに10月7、8日の2日間、青森市であおり環境フェスティバルが開催されました。当日はあいにくの天候で屋内のイベントのみとなりましたが、多くの県民でにぎわいました。



▼紙漉き体験中



▲ワックスボール体験中

2Fでは風呂敷の包み方講習やペットボトルを使った楽器づくり、ろうそくを使ったワックスボール作り、紙漉き体験などが開催され、たくさんの親子連れや旅行者が参加していました。

また、青い海公園では低公害車の展示・試乗会も行われました。



▲ふるしき体験中



山口ともさんと、トロロのさんぽのリズムに乗って手作り楽器で進行中▼



▲石原良純さんもテープカット

会場の青森県観光物産館アスパム 1Fでは、気象予報士でタレントの石原良純さんによるスペシャルトークショーや、TV番組でおなじみの山口ともさんによる、生活の中の廃品を使った手作り楽器のパフォーマンス、「愛・地球博」で活躍したモリゾー・キッコロとの撮影会、傘を使ったエコバックづくりなどが行われました。

05 「環境紙芝居」出前授業、学校訪問中！

青森県は全国と比べて、1人が1日に出すごみの量が多く、リサイクル率が低い県だということを知っていますか？

わたしたちのまわりの豊かな環境を守り、将来にわたって持続可能な社会を築くためには、「環境と共生する循環型社会」をつくる必要があります。そのためには、ひとり一人が、使える資源を大切に「もったいない」の意識を持ち、大量にごみを出すライフスタイルを見直すことが大切です。

県では、未来を担う子どもたちが、ごみの分別や「もの」を大切にすることの行動を通じて、「もったいな

い」の意識を育み、具体的な取組へ結びつくことを目指して、今年度、「環境紙芝居出前授業」を実施しています。

対象は主に小学校低学年の子どもたちで、今年度は39校の小学校を訪問する予定です。出前授業では、ごみのポイ捨て防止をテーマとした紙芝居「環境戦士カンキョマン」や、ごみの減量・リサイクルに関するクイズを通して、子どもたちといっしょに「もったいない」を考えています。



出前授業で子どもたちと考える環境クイズの一例を紹介します。みなさんも一緒に考えてみて下さい。
①スーパーやコンビニに買物に行くとレジで袋をもらいます。1人で1年間にどれくらいの数の袋をもらっているでしょう？
①100枚 ②300枚 ③800枚 <正解>②
②わたしたちは毎日さまざまなごみを出していますが、家から出るごみで一番多いのは何のごみでしょう？
①紙 ②プラスチック ③生ごみ <正解>③



06 あおり環境マイスター、ただいま養成中です！

県では、環境保全活動や環境教育の指導者として活動する環境活動リーダーを養成するため、昨年度に引き続き「環境マイスター養成講座」を開講しています。去る8月19日に開講式と第1回講座が行われ、12月までに合計10回の講座を開催します。

この講座では、環境に関する知識を深めるほか、受講者自ら参加しながら、プログラムの企画や実施、グルー

プ討論やワークショップの進め方などについて、技術の向上を目指します。現在10名が受講中です。

講座を修了した受講者は、環境マイスターとして、環境について学びたいというみなさんのお手伝いをします。新しい環境マイスターの誕生にご期待下さい。

これまでに認定した環境マイスターをホームページで紹介していますので、こちらでもご利用下さい。
<http://www.pref.aomori.lg.jp/kankyo/econavi/guide/meister/top.html>

